

# SEA LIFE NEWS

TOKYO SEA LIFE PARK



葛西臨海水族園

## ホウボウ

【英名】 spiny red gurnard

【学名】 *Chelidonichthys spinosus*

海底で小さなエビやカニ、ゴカイなどを食べる肉食性の魚で、日本各地の沿岸に分布しています。ホウボウの特徴は胸ビレ。ゆっくり泳いだり、何かに驚いたりすると半円形の胸ビレを広げます。胸ビレを上から見ると、きれいな緑色で、しかも鮮やかな青色でふちどられています。また、胸ビレのすじ(軟条)は細い棒状になっていて、左右に3本ずつ計6本あります。ホウボウはこの軟条を脚のようにつかって海底を歩くように移動できます。それだけではなく、味を感じることでもできると考えられています。ときおり軟条を砂の中に入れて動かしているのはエサを探しているのかもしれない。「東京の海」エリア「東京湾の漁業」水槽でぜひご覧ください。(飼育展示係 橋本 浩史)

## CONTENTS

### SEA LIFE TOPICS

- 世界でここだけ! 繊細なナースリーフィッシュの運搬方法
- オオタルマワシの飼育の工夫

### なぎさNEWS

- 「西なぎさ」の生き物たち 2023年のまとめ

### 水族園のもう一つの顔

- 飼育係もお勉強 飼育展示研究会
- おかげさまで開園35周年

### TSLP LATEST



Vol.22 No.2 2024

APRIL

通巻

115

# SEA LIFE TOPICS

二人一組で慎重にバケツを運ぶ



## 世界でここだけ！ 繊細なナーサリーフィッシュの運搬方法

「世界の海」エリアでは、ナーサリーフィッシュを展示しています。オーストラリア北部のダーウィンから採集してきたもので、展示しているのは世界でもおそらく葛西臨海水族園だけという大変珍しい魚です。さて今回は、ナーサリーフィッシュをバックヤードから展示水槽まで運ぶ作業の様子を紹介します。

透明度の低い濁った川などに生息するナーサリーフィッシュは急な光の変化や振動に敏感なため、運ぶにはさまざまな工夫が必要です。まず、バックヤードの水槽にいるナーサリーフィッシュ



とても繊細なナーサリーフィッシュ

ッシュを驚かせないように網で捕獲し、バケツの中にそっと移します。

バケツには、内側から順に透明と黒のポリ袋を二重にしかぶせてあります。

はじめに、透明の袋の口を閉じるのですが、運搬中に水面が揺れてナーサリーフィッシュが空気を飲み込んでしまうのを防ぐため、空気が入らないように閉じます。このとき、必ずナーサリーフィッシュが袋の中で落ち着いていることを確認します。もし暴れていけば、水槽に戻して落ち着くのを待ちます。繊細なナーサリーフィッシュを運ぶのに、焦りは禁物なのです。透明の袋の口を閉じたら、さらに黒い袋で遮光し、二人一組でバケツを運びます。今回はバックヤードから展示水槽がある本館まで距離があったため、軽トラックを使用しました。ここでのポイントは、大きな振動がバケツ内に伝わらないよう、歩くほどのスピードでゆっくり進むことです。本館までたどり着くと、再び二人一組で慎重に運びました。展示水槽に到着したら袋をゆっくりと開け、ナーサリーフィッシュをそっと入れたら、運搬作業は無事に完了です。今回の運搬により、新たにオス2匹とメス3匹が展示に加わりました。

(飼育展示係 松本 あかり)

## オオタルマワシの飼育の工夫

2024年1月13日から85日間、トピック水槽でオオタルマワシを展示しました。タルマワシ類は端脚類というグループに属する甲殻類の一種で、とくにメスはサルバとよばれるゼラチン質のプランクトンを「タル」型のすみかにつくりかえて生活しています。細長い脚で「タル」を保持し、腹肢で水をかくことで、「タル」とともに移動します。タルマワシ類の飼育例は少なく、水族園では試行錯誤しながら飼育しています。今回はさまざまな工夫の中で「人工タル」の取り組みについて紹介します。オオタルマワシは「タル」をすみかとしています。が、「タル」はもともと生き物の体なので、時間がたつと徐々に崩れてしまいます。飼育下では「タル」がなくなると、水槽の壁に接触

してしまうなど、体への負担が増すおそれがあります。そこで、他の水族館の事例を参考に「人工タル」の制作を試みました。「人工タル」は、透明な塩ビ樹脂などを材料に手作りしました。とくに浮力に気をつけ、浮きすぎもせず沈みすぎもしない、絶妙な浮き加減を目指しました。試作品を水槽に入れてみると、こちらの心配をよそに、すぐに「人工タル」にオオタルマワシが入りました。その後、外観をより「タル」に近づけるため改良を重ねました。観察しているなかで、2匹が一つの「人工タル」に入っていたり、気に入ったものを長くつかったりしており、何かしらの好みがあるらしいことも分かってきています。飼育に工夫を凝らすことによって、「タル」に入って浮遊生活するという特徴的な生態をもつオオタルマワシを、以前よりも長く展示することができました。(教育普及係 小川 悠介)



「タル」をすみかにするオオタルマワシ

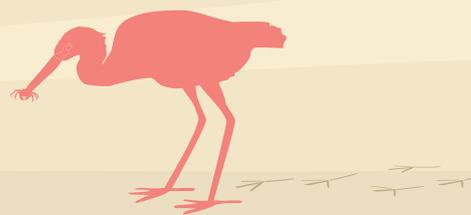


「人工タル」に入った!



試作品の数々

# なぎさ NEWS



## 「西なぎさ」の生き物たち 2023年のまとめ

水族園では、葛西海浜公園の「西なぎさ」にくらす生き物の生息状況や季節による変化などを定期的に調べています。今回は、2023年の調査でみられた生き物を紹介します。



### 【地曳網調査】

#### ■ 西なぎさで採集されたアユを展示!



水族園では調査だけではなく、展示生物の採集にも地曳網を使っています。2023年4月、体長10cmほどのアユが約20匹入網しました。アユは秋から初冬に川で生まれ海へ下り、仔稚魚期を海で過ごした後、4～5月に川を遡上します。「西なぎさ」では毎年2月から4月ごろに遡上前のアユが入網することが、1998年から続く地曳網調査の結果から分かっています。継続した調査によって、生き物の出現時期が分かり、それを展示にいかすこともできるのです。今回採集されたアユは「葛西の海 2」水槽で展示したのち、バックヤードで飼育水の塩分を徐々に低くしていき淡水に合わせてから、淡水生物館の「清流」水槽で展示しました。

#### ■ 1年を通してみられるエドハゼ

エドハゼは、河口干潟の砂泥域に生息するハゼのなかまで、「西なぎさ」での地曳網調査では1年を通してみられます。2023年の4月と6月には2000匹以上が入網しました。「西なぎさ」では、数多くみられる魚ですが、じつは環境省のレッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物のリスト）に記載されている魚です。  
(飼育展示係 加藤 舞)



2023年の地曳網調査の結果は、Web版のSea Life News115号でご覧いただけます。

<https://www.tokyo-zoo.net/ebooks/SLN/index.html>

### 【生き物調査】

#### ■ 春の訪れを知らせる ツツオオフエリア

毎年3月くらいになって、気温も暖かくなってくると、多くの生き物を見つけることができるようになります。2023年3月の調査では、殻の幅が3cmくらいある大きなヤマトシジミ、冬の間はあまり見られなかったコメツキガニ、「西なぎさ」では比較的珍しいクボミテッポウエビなどが見つかりました。また、この時期、とくに多くみられる生き物として、ツツオオフエリアというゴカイのなかまがいます。体長1cmほどのゴカイで、干潟の表面を薄くはぎとるように掘ると大量に見つかります。ツツオオフエリアがどうしてこの時期の「西なぎさ」でたくさん見られるのかは分かっていませんが、底生生物調査チームにとっては春の風物詩のようになっています。

#### ■ 初夏は干潟が最もにぎわう季節

2023年5月の調査では、ヤマトシジミ、オキシジミ、シオフキ、マテガイといった二枚貝、ゴカイのなかまのミズヒキゴカイ、ツツオオフエリアを食べることが知られているウミウシのなかまやミヨキセワタなど多種多様な生き物が見られました。干潟の泥の上ではオサガニのオス同士が取っ組み合いをしているところを発見しました。ケンカのきっかけは分かりませんでしたが、巣穴の取り合いをしていたのか、はたまた繁殖相手のメスをめぐって争っていたのかもかもしれません。初夏はたくさんの生き物が見つかるだけでなく、生き物のさまざまな生き様を見ることができます。  
(教育普及係 田中 隼人)



# 2023年地曳網調査結果

水族園では偶数月に葛西海浜公園「西なぎさ」で小型地曳網を使用した生物調査を行っています。一年を通して調査することで、「西なぎさ」に生息する生き物の種類や個体数の変化をみることができます。(飼育展示係 加藤 舞)

| 分類        | 実施月          | 2月   | 4月    | 6月    | 8月     | 10月  | 12月  | 合計個体数  |
|-----------|--------------|------|-------|-------|--------|------|------|--------|
|           | 水温 (°C)      | 10.4 | 18.5  | 28.0  | 29.0   | 25.0 | 14.8 |        |
|           | 塩分 (PSU) ※ 1 | 30.0 | 23.6  | 17.0  | 9.8    | 13.6 | 28.6 |        |
| ニシン目      | カライワシ        |      |       |       | 1      |      |      | 1      |
|           | サッパ          |      |       | 380   |        |      |      | 380    |
|           | コノシロ         |      |       |       | 1,656  |      |      | 1,656  |
|           | イシカワシラウオ     |      |       |       | 1      | 14   |      | 15     |
| トゲウオ目     | ヨウジウオ        |      |       |       | 4      |      |      | 4      |
| ボラ目       | ボラ           |      | 18    | 1     |        |      |      | 19     |
| トウゴロウイワシ目 | トウゴロウイワシ     |      |       |       | 6      |      |      | 6      |
|           | クルメサヨリ       |      |       |       |        |      | 1    | 1      |
| スズキ目      | スズキ          |      | 11    | 1     |        |      |      | 12     |
|           | コショウダイ       |      |       |       | 4      |      |      | 4      |
|           | クロダイ         |      | 4     | 58    |        |      |      | 62     |
|           | キチヌ          |      |       |       |        | 1    |      | 1      |
|           | ニベ           |      |       |       | 10     |      |      | 10     |
|           | シロギス         |      |       |       |        | 7    |      | 7      |
|           | ナベカ属         |      |       |       | 4      |      |      | 4      |
|           | ミズハゼ属        |      | 3     | 1     |        |      |      | 4      |
|           | ヒモハゼ         | 1    | 1     | 1     | 2,355  |      | 1    | 2,359  |
|           | マハゼ          |      | 55    | 21    | 32     | 8    |      | 116    |
|           | アシシロハゼ       | 10   | 22    | 4     | 7      | 3    |      | 46     |
|           | シモフリシマハゼ     |      |       |       | 111    |      |      | 111    |
|           | チチブ属1        |      |       | 7     | 4,270  | 2    |      | 4,279  |
|           | チチブ属2        |      |       |       | 1,156  | 2    |      | 1,158  |
|           | ヒメハゼ         |      | 1     |       | 2      |      |      | 3      |
|           | ニクハゼ         |      |       |       | 3      |      |      | 3      |
|           | ピリンゴ         | 1    | 6,411 | 45    |        |      |      | 6,457  |
|           | チクゼンハゼ       | 42   |       |       |        |      | 6    | 374    |
|           | エドハゼ         | 4    | 2,211 | 2,799 | 6      |      | 16   | 5,036  |
|           | ウキゴリ属        |      | 362   | 4     |        |      |      | 366    |
|           | ハゼ科          |      | 73    | 41    | 4,529  | 11   |      | 4,654  |
| カサゴ目      | マゴチ          |      |       |       | 6      | 14   |      | 20     |
| フグ目       | ギマ           |      |       |       | 140    |      |      | 140    |
|           | トラフグ         |      |       | 5     |        |      |      | 5      |
|           | フグ科          |      |       |       | 3      |      |      | 3      |
| 合計個体数     |              | 58   | 9,173 | 3,697 | 14,303 | 62   | 23   | 27,316 |
| 種類数 ※2    |              | 5    | 13    | 16    | 20     | 9    | 3    | 33     |

4月の調査では、クルメサヨリが2年ぶりに入網しました。

最近見られるようになったチクゼンハゼ。6月にはこれまでで一番多く入網しました。

※1 普通の海水の塩分は34ほどです。雨の多い季節は川から淡水が多く流れ込むため、薄まって値が低くなります。  
 ※2 種がはっきりしていない仔・稚魚も、1種として数えています。

# 水族園 のもう一つの顔

## 飼育係もお勉強 飼育展示研究会

水族園では生き物に直接かかわる仕事として、生き物の世話をしたり展示したりする飼育展示係、生き物を収集し水族園に連れてくる調査係、生き物をみなさんに楽しく分かりやすく伝える教育普及係があります。飼育展示や教育普及にかかわる職員の技術向上を図ることを目的の一つとして、基本的に月に一回、飼育展示研究会を開催しています。研究会での発表内容は、水族園で行われている飼育展示や教育普及の業務にかかわることから国内外で行った調査・採集・会議などの報告、学会での研究発表の予行演習や外部研究機関との共同研究または外部から講師を招いての講演など多岐にわたります。最近の研究会では水族園地先の人工干潟「西なぎさ」での地曳網調査の結果が報告されました。近年、「西なぎさ」ではトラフグが採捕されるなど、以前には見られなかった生き物が見つかっています。水族園の目の前の海だけでなく、世界中の生き物を取り巻く状況や情報は刻々と変わってきています。研究会を通して情報を共有し日々の業務に活用するとともに、水族園全体のレベルアップにつながるよう研鑽をつんでいます。

(飼育展示係 笹沼 伸一)



ある日の飼育展示研究会。大学の先生による講演の様子

## おかげさまで開園35周年

葛西臨海水族園は、1989年(平成元年)10月10日に開園し、おかげさまで今年の10月に開園35周年を迎えます。そこで、2024年4月1日から2025年3月31日までの1年間、感謝を込めてさまざまなイベントを予定しています。

準備が始まったのは2023年

4月。まずは園内にプロジェクトチームを設置しました。35周年ということでのどのようなことをテーマに、1年間の展開をどのように進めたら良いか、何度も打ち合わせをしてきました。

キャッチコピーは「35th Anniversary ～これまでとこれから～」。水族園の「これまで」の歩みを振り返るとともに、2028年にオープン予定の新しい施設を見据えた「これから」を考えてゆくこととしました。

ロゴマークも、一目で水族園が35周年であることがわかること、水族園で飼育や保全・繁殖に取り組んでいる生き物たちが未来に向かって進んでいるようにみえること、などをイメージして作成しました。

私たちは、これまでも、これからも、さまざまな海域や環境の生き物を展示し、海と人をつなぐきっかけとなる情報を発信していきます。また、海の豊かさを守る取り組みを皆さんと一緒に広げていけるよう努力を続けていきます。

35周年記念企画として、スペシャルガイドツアーなど皆さんが参加し、楽しめるイベントをたくさん用意しています。さらに、記念グッズの販売なども行っていく予定です。どうぞお楽しみみに。

(副園長兼飼育展示課長 杉野 隆)



## TSLP LATEST

TOKYO SEA LIFE PARK

- 2/1 「海鳥の生態」水槽で混獲回避実験とガイドを実施
- 2/1-29 「Deep of Wonder 不思議な深海の生き物たち」を開催
- 2/4 「深海サイエンストーク」を実施
- 2/10 身近な水辺保全講演会を実施
- 2/11 「深海スタッフトーク」を実施
- 2/23 「深海の生物 トピック水槽」にヒゲキホウボウを展示
- 2/23-25 「深海ラボ」を実施
- 3/7 「サンゴ礁の海」水槽でトウアカカモノミを展示
- 3/12 オウサマペンギンを仮施設で展示開始
- 3/13-14 深海エビ・カニカゴ採集を実施
- 3/14 「東京湾 アマモ場」水槽でクルマサヨリを展示
- 3/14 「葛西周辺のカニ」水槽を改修工事のため展示閉鎖



TOKYO  
SEA LIFE  
PARK

### 編集後記

今号の表紙で紹介したホウボウ。じつはとても美味しい魚で、魚屋さんやスーパーの鮮魚コーナーで見かけることもあります。上品な白身は、お刺身、煮付け、唐揚げと何にしても絶品。「東京湾の漁業」水槽では他にも美味しい魚を展示しています。水槽の魚を「食」とつなげて観察してみるのも、水族園の楽しみ方の一つかもしれません。(田中)

### SEA LIFE NEWS 通巻 115

Vol.22 No.2 2024 APRIL 4月1日発行(次号は2024年6月発行予定)

編集 葛西臨海水族園  
〒134-8587 東京都江戸川区臨海町 6-2-3  
TEL.03-3869-5152  
www.tokyo-zoo.net/

発行 公益財団法人東京動物園協会  
〒110-0008 東京都台東区池之端 2-9-7  
池之端日殖ビル7階  
TEL.03-3828-2143

